実践レポート

【報告者】 沖津 晴一	
【学年】 5 年	【教科・単元名など】 国語科 未確認飛行物体
【実践内容】	
1 時間目：1 人読み(読み方がわからない字に線を引きながら読む) 追い読み、交代読み(教師 児童、児童 教師、教師 男子 女子、列ごと、1 人ずつなど)	
2 時間目：意味調べ 竹の子読み(読みたい所を読む)、暗唱 詩を扱う時は必ず、暗唱を入れている。挑戦しようという意欲がわき、自ら練習する。 プレゼンソフトを利用して順に消したり、黒板に最初の単語だけを記入したりしている。	
3 時間目～4 時間目：読解	
発問 この詩はいくつのまとまりからできていますか。	
発問 どんな薬缶ですか。書き抜きなさい。	
発問 薬缶が飛んでいる様子が書かれている所を 2ヶ所書き抜きなさい。 擬人法	
発問 薬缶はどんな所を飛んでいますか。 対比	
発問 「身をかしげて」とはどのように飛んでいるのですか。絵を描きなさい。 ・前傾している。後傾している。横に傾いている。と、意見が3つ出て討論となった。 私は水がこぼれないように後傾していると考えていたが、「急ぐ時は前のめりになるから前傾である。」 「首をかしげる時は横に向くから横に傾いている。」という意見であった。	
発問 薬缶はどんな薬缶ですか。次から選びなさい。特別な薬缶、普通の薬缶、こわれそうな薬缶	
発問 それ分かる所を書き抜きなさい。 ・これも意見が分かれたが、次の発問から考えさせた。	
発問 薬缶はどのように飛んでいますか。6字で書き抜きなさい。 ・このことから特別な薬缶やこわれそうな薬缶ではなく普通の薬缶であることを考えさせた。	
発問 薬缶は何のために飛んでいるのですか。	
指示 この詩には作者のどんな思いが込められていますか。この詩に書かれている言葉を使わないで書きなさい。 ・あらかじめ、ドラえもんの話为例にして考えさせた。	
【反省】	
・竹の子読みでは、自分が読もうと思う所をあらかじめ決められるので、どの子も自信を持って読むことができた。「一人最低一回は読む。最高三回。続けて読まない。」としたが、いずれなくしたい。 ・発問 で討論を組んでみようと思っていたが、発問 で予想以上の反応があったので討論となった。実際に薬缶の飛んでいる絵を描くのは熱中して取り組み反応が良かった。 ・指示 で「特別優れていなくても一生懸命になれば他のものの役に立てる。」ことを捉えさせたかったが、上記のように捉えられたのは37人中13人であった。その他は直接的な表現であった。捉えさせる発問が必要であった。	